

が松戸市で開催されました

令和7年6月7日（土）、緑豊かな潤いのある住環境の形成と、緑を守り育てる運動の推進を呼びかける「第36回全国『みどりの愛護』のつどい」が、秋篠宮皇嗣同妃両殿下のご臨席のもと、松戸市の「森のホール21」および「21世紀の森と広場」において開催されました。

つどいでは、人と自然が共に生きる持続可能な社会の実現に向け、地域ぐるみで緑を守り育てる心と行動の大切さが広く発信されました。

◆式典 ～森のホール21～

■ 主催者挨拶：国土交通大臣、千葉県知事、松戸市長



国土交通大臣 中野 洋昌

都市の緑が果たす役割に触れ、地球温暖化防止や生物多様性の確保、災害に強いまちづくりなど、緑がもたらす多面的な価値を再認識するとともに、昨年制定された都市緑地法に基づき、国・自治体・民間が連携して緑地の質と量の確保を進める取り組みを紹介しました。また、2027年に横浜市で開催予定の国際園芸博覧会に向けて、自然と共生する持続可能な社会の実現に向けた発信を強化していく考えを述べられました。



千葉県知事 熊谷 俊人

県の豊かな自然環境と文化的資源に触れながら、緑化意識の高まりや地域の魅力をさらに引き出すことへの期待を語りました。松戸市が位置する葛飾地域の、都市機能と自然が調和した住環境や鉄道沿線の商業の発展、利根川や江戸川などの水辺空間、梨や枝豆などの農産物の魅力が紹介され、こうした地域資源を活かしながら、緑を守り育てる活動が広がっていくことが地域の個性をさらに輝かせる原動力になるとし、千葉県から全国へと緑が広がり、次世代へと受け継がれていくことを願っていると述べられました。



松戸市長 松戸 隆政

平成16年に制定された「松戸緑の市民憲章」に基づき、市民が主体となって緑を守り育てる活動を継承してきたこと、そして「21世紀の森と広場」や街路樹、公園などの整備を通じて、緑豊かな都市環境が築かれてきたことに触れ、市民が長年にわたり主体的に取り組んできた緑の保全活動への歴史と誇りを紹介しました。そして、「松戸緑の市民憲章」に込められた3つの誓いが今も市民の間で受け継がれていること、市は昨年、人口50万人を達成し、都市としての成長とともに、緑を守り育てる責務の重さを改めて認識していることに触れ、都市と自然の調和を目指すまちづくりへの決意を新たにしました。

活動事例紹介：表彰団体「松戸里やま応援団」の活動事例発表



松戸里やま応援団 代表

松戸里やま応援団は、里山保全に取り組む14団体が連携して構成された市民団体で、約240名が活動している。各団体は市内の森で定期的の下草刈りや清掃、枯れ枝除去などを行い、地域の緑を守り育てている。

団体間の情報共有や共同作業、講習会、イベントも活発で、毎年5月には市内18か所の森を一斉公開する「オープン FOREST IN 松戸」を開催。緑に親しみ、未来へなぐ心を育む場として、多くの市民が訪れている。

また、秋には「里山ボランティア入門講座」を開講し、緑の保全を担う人材育成にも力を入れている。今後も各団体との連携により松戸の森を守り、緑の魅力と大切さを次世代へ伝えていくとの活動内容が紹介がされました。

表 彰 式：◎国土交通大臣表彰・・・全国で緑の保全・緑化活動に顕著な功績を残した94団体
◎千葉県都市緑化功労者知事表彰・・・千葉県内で都市緑化に貢献した32団体



国土交通大臣表彰
代表受領：葛飾区緑化推進協力員会（松戸市）



千葉県都市緑化功労者知事表彰
代表受領：フラワーロード推進協議会（館山市）

誓いの言葉：松戸市内の小学生による「誓いの言葉」



左：松戸市立矢切小学校 6年生児童
右：松戸市立高木第二小学校 6年生児童



秋篠宮皇嗣同妃両陛下によるお声掛け

登壇した松戸市矢切小学校と高木第二小学校の児童が、緑を守り育てることの大切さを自らの言葉で力強く宣言しました。

秋篠宮皇嗣同妃殿下からも温かなお声掛けをいただきました。

■ 秋篠宮皇嗣殿下のおことば：ご臨席された秋篠宮皇嗣よりおことばを賜りました。



緑の重要性と次世代への継承について述べられる秋篠宮皇嗣殿下

秋篠宮さまは、全国各地で緑の保全や緑化活動に尽力されている皆様の長年の努力に敬意を表されるとともに、都市化が進む現代において、緑が果たす役割の重要性について言及されました。特に、緑がもたらす癒しや、災害時の安全性、生物多様性の保全といった多角的な価値に触れ、緑を守り育てることが、私たちの暮らしの質を高め、持続可能な社会の実現につながるとのお考えを示されました。

また、地域に根差した活動が全国に広がり、次世代へと受け継がれていくことへの期待も述べられ、会場に集まった一人ひとりの取り組みが、未来の緑豊かな社会を築く礎となることを願われました。

◆ 記念植樹 ～21世紀の森と広場～

記念植樹は、緑の保全と都市緑化の重要性を広く発信し、未来へ緑をつなぐ象徴的な行事として、「21世紀の森と広場」において行われました。

秋篠宮皇嗣同妃両殿下は松戸市にゆかりのある「エドヒガン」の苗木を丁寧に植えられました。また、主催者代表や表彰団体の代表によって「イヌマキ」「スダジイ」「ソメイヨシノ」も植樹されました。



記念植樹の様子



松戸市にゆかりのある「エドヒガン」を植樹される秋篠宮皇嗣同妃両殿下